

1 (5) 24 時制指定 (8) 順不同完答 (9) 完答

(1)	北極星	(2)	10 月	(3)	エ	(4)	D	(5)	3 時
-----	-----	-----	------	-----	---	-----	---	-----	-----

(6)	エ	(7)	ウ	(8)	イ と ウ	(9)	回転	イ	角度	90 度
-----	---	-----	---	-----	-------	-----	----	---	----	------

(10)	5 月
------	-----

2 (1) 順不同完答

(1)	ア と ウ	(2)	エ	(3)	子房 (しぼう)	(4)	イ	(5)	ウ
-----	-------	-----	---	-----	----------	-----	---	-----	---

(6)	イ	(7)	オ	(8)	ア
-----	---	-----	---	-----	---

3

(1)	①	100 g	②	48 cm	(2)	①	96 g	②	20 cm
-----	---	-------	---	-------	-----	---	------	---	-------

(3)	①	80 g	②	60 cm
-----	---	------	---	-------

(4)	①	60 cm	②	80 g	③	300 g	(5)	10 cm
-----	---	-------	---	------	---	-------	-----	-------

4 (3) 完答 (7) 分数可

(1)	ア	(2)	イ	(3)	イ → エ → ア → ウ	(4)	レボルバー
-----	---	-----	---	-----	---------------	-----	-------

(5)	ウ	(6)	200 倍	(7)	0.25 倍	(8)	エ
-----	---	-----	-------	-----	--------	-----	---

[配点] 1~3 : 各 3 点 × 28 = 84 点

4 : 各 2 点 × 8 = 16 点 (合計) 100 点

1

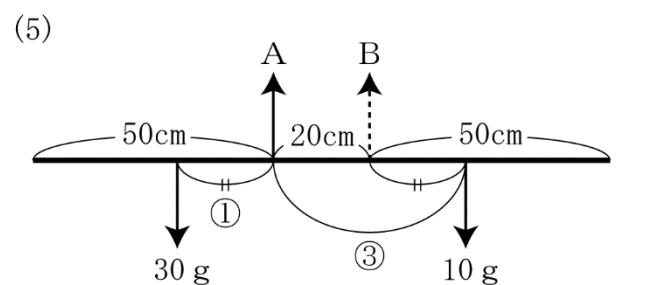
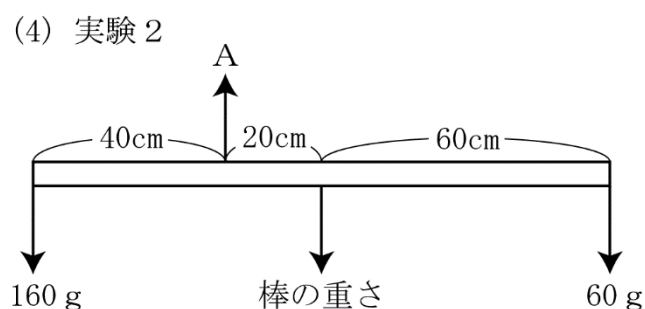
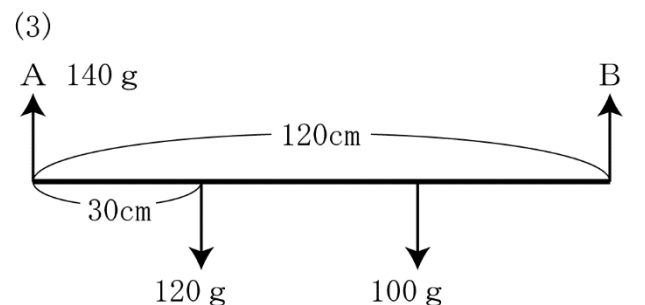
- (2) 日付の目もりは時計回りに書かれている。
 (3) 夏の大三角が見えているときに南の空低くに見えるので、さそり座とわかる。
 (4) Dが南, Eが西, Fが北, Gが東となる。星座早見では、東西に注意する。
 (5) 時刻の目もりは反時計回りに書かれている。
 (6) 見たい方角を下にする。
 (8) ア: 1か月前と2時間前→「30度戻る」と「30度戻る」→60度戻る
 イ: 1か月前と2時間後→「30度戻る」と「30度進む」→同じ星空
 ウ: 1か月後と2時間前→「30度進む」と「30度戻る」→同じ星空
 エ: 1か月後と2時間後→「30度進む」と「30度進む」→60度進む
 (9) 2か月後と2時間後→「60度反時計回り」と「30度反時計回り」→90度反時計回りに回す
 (10) か月と3時間後→「度回り」と「45度反時計回り」→105度時計回りに回す
 か月と3時間後→「150度時計回り」と「45度反時計回り」→105度時計回りに回す
 5か月前と3時間後→「150度時計回り」と「45度反時計回り」→105度時計回りに回す
 10月-5か月=5月

2

- (2) ヘチマの子房は、がくよりも下にある。
 (4) 以下のようになる。
 ウリ科:ヘチマ, ツルレイシ ナス科:トマト アブラナ科:ダイコン ヒルガオ科:サツマイモ
 (5), (6) 冬に花を咲かせるツバキは、こん虫ではなく鳥に花粉を運んでもらう。

3

- (1) ① 上下の力のつり合いから考える。 $60\text{ g} + 40\text{ g} = 100\text{ g}$
 ② 棒の左端を支点とする。 $40\text{ g} \times 120\text{ cm} = 100\text{ g} \times \text{48 cm}$
 (2) ① 上下の力のつり合いから考える。 $96\text{ g} + 24\text{ g} = 120\text{ g}$
 ② 棒の左端を支点とする。 $24\text{ g} \times 100\text{ cm} = 120\text{ g} \times 20\text{ cm}$ $120\text{ cm} - 100\text{ cm} = 20\text{ cm}$
 (3) ① 上下の力のつり合いから考える。 $140\text{ g} + 80\text{ g} = 120\text{ g} + 100\text{ g}$
 ② 棒の左端を支点とする。 $80\text{ g} \times 120\text{ cm} = 120\text{ g} \times 30\text{ cm} + 100\text{ g} \times \text{60 cm}$
 (4) ① 棒Yの左端から60cmのところ(棒Yの真ん中)にばねはかりを取り付けて棒が水平になったことから、棒Yの真ん中に重心があることがわかる。
 ② ばねはかりAの位置を支点とする。 $160\text{ g} \times 40\text{ cm} = 80\text{ g} \times 20\text{ cm} + 60\text{ g} \times 80\text{ cm}$
 ③ 上下の力のつり合いから考える。 $300\text{ g} = 160\text{ g} + 80\text{ g} + 60\text{ g}$
 (5) ばねはかりBが0gを示したので、右図のように力の矢印は3つとなり、支点をばねはかりAのところにおいて考える。
 右図のように、長さの比は①:③となり、2つのおもりが移動した長さが①なので、右図より 20 cm が $③ - ① = ②$ となる。よって、移動したのは 10 cm となる。



4

- (5) 上下左右が逆に見える。
 (6) $10 \times 20 = 200$ 倍
 (7) 長さで 0.5 倍になるので、面積で $0.5 \times 0.5 = 0.25$ 倍となる。